

## 心因性咳嗽を疑われた慢性咳嗽の代表的症例から得られた教訓

灰田美知子<sup>1)</sup>，伊佐山浩通<sup>2)</sup>

半蔵門病院 アレルギー呼吸器内科<sup>1)</sup>，東大病院 消化器内科<sup>2)</sup>

咳嗽は心因の条件が揃っていても原因検索を怠らず身体疾患を見逃さない事が大事である。  
【症例1】22才女性。重症喘息で仕事継続が難しく親と同居したが強い咳嗽と頸部乾性ラ音  
が出現した。親とは不仲で精神的な緊張が続いたが肺機能正常，SaO<sub>2</sub>99%であり過呼吸が疑  
われた。耳鼻科で声帯の反転と咽頭部の過緊張を確認し声帯機能不全を疑い，抗不安薬の  
投与，臨床心理士の自律訓練法，SaO<sub>2</sub>98%を維持する様に呼吸回数を調整した所，頸部周辺  
の咳嗽とラ音は消失した。

【症例2】75才女性。民事訴訟の最中に咳嗽が慢性化した。画像診断，一般検査は異常なく，  
代表的な慢性咳嗽疾患の治療は全て無効だった。CMIはⅢ領域であり現実的ストレスも高  
度であり，耳鼻科でも喉の過緊張と瞳孔異常収縮を指摘され，後者は大後頭神経刺激で散  
大の後，咳が止まるため，咳は自律神経の過度な緊張が原因として精神科を紹介された。  
本例は当初からCA19-9の軽度上昇がありMRIで膵分岐型IPMNを指摘されていた。その後，  
CA19-9の再度上昇に際し，M膵頭部分岐型IPMN内部の充実性腫瘍がMRIにて膵悪性腫瘍  
と診断され根治手術を行なったが，その術後に慢性咳嗽は消失した。CA19-9は膵炎，膵  
癌の他，肺癌，気管支拡張症などでも上昇し，本症例でも何らかの共通機序が存在したと  
考えられ，心因性咳嗽が強く疑われても合併症検索を行う事は重要と考えた。

【キーワード】心因性咳嗽，自律神経失調症，声帯機能不全，膵悪性腫瘍，CA19-9